

保育士が足りない、とあちこちのメディアで特集が組まれたりしている。そりゃそうだろうと思う。保育士不足の解決など、小手先の対策で解決するはずがない。

私は公立保育園を定年退職したあと、私立保育園でパート勤めをしている。株式会社が運営する園で、いわゆるブラックではない。しかし毎年保育士が退職していく。3割程度の職員が毎年退職していくことが当初は驚きだったのに、今はその状態に慣れてしまっている。

なんだかあの先生元気がなくなっただけ、と感じると、その年度末には退職してしまう。毎年それを繰り返しているのだから、保護者も「なんでこんなに先生の入れ替わりが多いんでしょう。なにかあるのですか?」と園長に聞いてきたりするようだ。「なにか」というのは、いじめがあるとかお給料が安いとかだろうが、単純な対策では解決しない理由があるといつも思う。

今年度にいたっては、仕事についてから一週間足らずで新人保育士が退職した。突然欠勤し、その後「辞めたい」旨の連絡があったそうだ。年度途中で体調を崩し退職していく保育士も後を絶たない。

保育園の朝は早い。私のいる園では、早番は7時から、遅番は20時半までの勤務だが、鍵開け、全室の点検、遊具の点検、等こまごまとした準備が終わる7時半には朝いちばんの子が続々と登園してくる。80人の園児がいれ

ることと怪我をさせないことの両立はかなり難しい。が、私の周りには保育士は皆さんの中で奮闘していて、本当に頭が下がる。

それなのに、保育の仕事は「だれでもできる」と思われているようだ。例えば保育士配置基準を満たすためには、朝夕の子どもの少ない時間帯にも保育士を複数配置すること、となっているが、それが「緩和策」という名のもとになし崩しにされている。「人材不足を解消」するために、その時間帯は有資格者でなくても保育にあたる、というもので、これで保育士の負担は軽減される、とまでガイドブックには記述されている。

しかし、その時間帯の保育の責任はすべて保育士資格のある職員にかかっていく。たとえ新人職員であっても、緊急時の対応をしていかなければならないということだ。判断を誤れば子どもの命に係わる事例もあるにも関わらず。

という訳で「割に合わない」保育の仕事の解決を後回しにして行われる「異次元の少子化対策」というのが一体何をもたらすか、今から想像するだけでちょっと背筋が寒くなる。

丸投げ大国

澤 順子

(さわ じゅんこ)
東京都在住

ば、その一人一人の子の保護者に「昨日お家に帰ってから今朝までに変わったことはないか、体調はどうか」などきめ細かく確認してから子どもを預かる。荷物と違って子どもは自由に動くので、その段階から片時も目は離せない。そして日中は休憩もそこそこに日誌の記入・保育計画の作成などの事務に追われる。小さな怪我でもクレームをつける保護者が年々増えてきていて、子どもをのびのび遊ばせ